

平成 28 年度第 3 回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会会議録

1 日時

平成 28 年 10 月 13 日（木） 13:30～15:00

2 場所

エスポワールいわて 1 階 小会議室

3 出席委員（敬称略）

委員長 岡 田 秀 二
委員 角 田 信 子
委員 北 舘 充 史
委員 工 藤 昌 代
委員 田 村 恵
委員 吉 野 英 岐

4 議事

【1 開会】

- ・事務局が開会を宣言。

【2 挨拶】

〔岩手県農林水産部農政担当技監〕 本日は、お忙しい中、御出席頂き感謝申し上げます。

また、委員の皆様には、本県の農業振興に御尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

まず、台風 10 号の状況等について御説明する。台風 10 号は、特にも岩泉町に甚大な被害をもたらしている。岩泉町では、東日本大震災津波、いわゆる 3.11 よりも甚大な被害が出ている。県としては、なるべく町の負担がない形で復旧・復興を、さらには、単なる復旧・復興にとどまらず、その次に繋がるような振興策も考えなければいけない。

農林水産業全般においては、二つの大きな話題がある。一つは、3.11 で被害を受けたサケマスの孵化場が、再度被害を受けたため、これを全面に出して国と協議を進めている。何とか地元の負担があまりないような形で復旧できればと思っている。

もう一つは、岩泉乳業。岩泉は、本県の酪農発祥の地であり、町の核となる施設である。これについても、現在と同じ場所で元に戻すということで、これにも国の補助、そして県も上乘せして、ほとんど町の負担がない形で再建の見通しが立った。

その他に、農家個々の導入施設や機械も被害を受けているが、これについても、100%というわけにはいかないが、8 割程度の補助率で元通りにする事業も組むことができた。

この間の土曜日には、安部総理も現地に行き、国の関係省庁に激を飛ばしたと聞いている。県としても岩泉町に寄り添いながら、復旧・復興、またその先にある進展に努めていきたい。簡単ではあるが、御報告とさせていただきます。

本日は、平成 28 年度のいわて中山間賞の選考にあたり、推薦された集落が、表彰にふさわしいか御審議頂くためにお集まり頂いた。この賞は、女性や若者も参加しながら、地域の特色を活かした取組により、地域の活性化に成果を挙げている集落等に賞を与え、広く情報発信するものである。今年度は、先に現地調査をして頂いた雫石町、花巻市、一関市の三つの集落が対象である。すでに見て頂いたが、それぞれ個性を活かした活性化の取組が見られる一方で、少子化や人口減少という課題を各集落が抱えているという認識に至ったところである。本日は、現地調査の結果を踏まえながら、いわて中山間賞の表彰が妥当であるか御審議くださるよう、よろしくお願ひしたい。

- ・事務局から、委員 9 名のうち、過半数を超える 6 名の出席があることから、委員会が成立することを報告。

(これ以降、設置要綱第 4 の 2 の規定により、岡田委員長が議長となり進行。)

【3 協議】

平成 28 年度いわて中山間賞授与候補集落の選考

(1) 雫石町「横欠環境保全の会」

- ・事務局が、資料 No. 1 に基づき、いわて中山間賞の概要と選考の基準を説明。
- ・事務局が、資料 No. 2-1 に基づき、雫石町の横欠環境保全の会の概要を説明。

《意見等の内容》

[工藤委員] 災害があった際、地域で団結した話を聞き、地域の連携ができていていると感じた。フラワーロードについて、女性や子供を含み、地域の人々が一つのことを楽しみながら取り組んでいて良い。地域の環境を共同で作っていくという印象を非常に感じた。

[角田委員] 部落内に子供が少ないが、近く of 集落と一緒に取り組んでいる所が良い。閉鎖的な考えではなく、広域で考え、地域を守っていくという事は良い。

[北舘委員] 農業従事者以外が集まり、町が活性化しているのは良い。水芭蕉の群生地については、手を掛ければとても良い所になると思う。観光資源になるのではないかと。

[田村委員] 高齢化が集落には必然的に訪れるが、地域で考えているのではないかと。

[岡田委員長] 活動の継承について、事務局から補足をお願ひしたい。

〔事務局〕活動の継承は、集落内にある様々な組織と一体的に行っている。特にフラワーロードの整備については、地域総出で共有しており、このような活動により今後も継承がなされていくと考える。

〔吉野委員〕中山間地域等直接支払制度に取り組んでいない中で、中山間賞となると、中山間ならではの部分をどう解釈すればよいか。

〔岡田委員長〕盛岡振興局から推薦があったわけだが、担当としては中山間という部分をどう受けためたのか。

〔事務局〕集落の中で世代を超えて様々な活動をしていて、都会とは違う中山間地域の資源を通じて、まとまっている部分が中山間賞に値すると判断した。

〔吉野委員〕林地がすぐそばにあり、それとともに活動を繰り広げているとか、平場地域にない特徴、そしてそれをうまく活かした活動をしているとアピールした方が良い。

〔事務局〕からかさ松の散策道を整備している。からかさ松から水芭蕉の群生地への山道も整備されている。山にある資源を活かしながら、将来的には人を呼び込むような取組を進めている。

〔吉野委員〕平場には近いが、やはり中山間地であるという特徴を調書に書くと良い。

〔岡田委員長〕中山間の様々な地域にとって、ここが一つの優良事例となって、普及・啓発に本当に値するのか、賞の本旨に照らして選定そのものが良かったと言われるようにしなければならない。

〔事務局〕山村部分の地域資源があり、それを活かして人を呼び込んで活動していることについては、中山間直払に取り組んでいる集落にとっても参考になると考える。

〔岡田委員長〕中山間地が色々ある中で、盛岡広域振興局が、ここを推薦した理由をきちんと調書に書きこんでいれればと思う。

〔事務局〕賞の要領に則って、中山間地域としての活動を評価し、盛岡広域局管内の取組としてきちんと紹介できるようにしたい。

〔岡田委員長〕この会の意見が極めて重要なものとして賞の採択になるので、(事務局には) よろしくお願ひしたい。それでは、意見交換の結果として、横欠環境保全の会にいわて中山間賞を与えることとしてよろしいか。

〔委員一同〕(同意)

(2) 花巻市東和町「町井集落」

- ・事務局が、資料 No. 2-2 に基づき、花巻市の町井集落の概要を説明。

〔角田委員〕現地調査をした場所は、平場の人口集中地域から近く、道路も立派であったため、こういう所で良いのかと正直思った。しかし、地元の資源であるカブトムシ、そのカブトムシが好んで集まるサイカチの木に着目し、カブトムシによって町おこしを作り上げ、地域外へのアピールや地域外から人を引き込むという魅力は、ある意味参考になると思う。郷土食や農産物など、地元にあるものが当たり前と皆思ってしまうが、それを努力により格上げしたところはすばらしい。20年前からビジョンを持って活動しているところも参考になるのではないか。

〔工藤委員〕現実化しているようなマップをかなり前から作っているのがすごいと思った。夢を語ったマップはインパクトがあった。また、世代交代がきちんと出来ていて良い。平場と中山間の活動の違いをどう判断していいかわからないが、平場でもそういった活動が出来ていない所もある。人のつながりを大事にしたコミュニティ形成の事例としても着目できるのではないかと思った。できれば、世代交代した人々がマップを具体化して、まるでその地域がおもしろいアドベンチャーワールド的な所になるとおもしろいと思った。

〔田村委員〕やりたいことが点在しているが、直近のやりたいことを明確にしたらさらに良いと思った。

〔北館委員〕ビジョンがしっかり出来ているので、それに合わせて一次産業化をはっきり目指している。これから二次、三次のビジョンづくりを進めていくことが出来れば、さらに人が集まるような集落になるのではないか。

〔吉野委員〕法人化して、法人が30haに対して利用権の設定を受けて、協定農用地を含め一体的に農業生産活動を行っている。これまでの長い活動の成果として、平場と中山間地域が一緒になって活動していることが、もう少し調書に書いてあると良い。調書には、カブトムシや町の木であるサイカチについて記載がない。町のシンボルがたくさんこの

地域にあり、樹木と生物を活かして町おこしをしている所は、平場とは違う資源を使っている良い事例だと思った。単なる木ではなく町の木であることが、アイデンティティを強く地域で持って活動していると思った。農業生産活動もきちんと形を作り法人化した上で、集落一体で進めようとしている部分は評価できる。

〔事務局〕 マップは集落をまとめ上げるための良いツールになる。集落に団結力を持たせることができる。他の地域にも参考になると思う。

〔岡田委員長〕 方向として6次産業化は良いが、現実的にするためには、この地域が持っているプラスの道具立てがないと、他の中山間地域の参考となりにくいという角田委員の御指摘はその通りと思う。その部分は上手に説明しつつ、ビジョンを持つ、取れんしていくものを持つことの大事さは参考になる。

それでは、意見交換の結果として、町井集落にいわて中山間賞を与えることとしてよろしいか。

〔委員一同〕 (同意)

(3) 一関市藤沢町「ふる砂徳集落」

・事務局が、資料 No. 2-3 に基づき、一関市のふる砂徳集落の概要を説明。

《意見等の内容》

〔角田委員〕 子供たちも農作業をしなくなったから効率的に地域で代わって作業をやってあげる、Uターンで戻ってきた人たちがまた農業をやれるように農地を代わって守って行くということはとても素晴らしいと思う反面、個々の農家が大事にされない、生き残っていけないということが心配に感じた。個々がきちんと大事にされて、さらに地域として成り立つ姿が理想と考える。個がなくなっても地域が良ければいいというのは違う。取組としては素晴らしいと思ったが、もっと先を考えた時、個がしっかりしていないと地域が廃れていくのではないか。

〔岡田委員〕 大変重要なことである。

〔事務局〕 なかなか名案のない状況である。基本的には産業振興施策を進めるのだが、一方、そこは皆の住んでいる地域であって、地域政策として次に何を考えなければならないのか。この両輪を考えなければならないので、非常に難しい。大事な問題だと思う。

〔角田委員〕 自分の仕事に明るいビジョンを持っていないと、子供にも継がせられないの

で、効率化が優先されているというのはわかるが、その地域の良さを守っていけるような取組をしているところが出てこないだろうかという気がしてくる。

〔事務局〕正直言って難しいとしか今は言えない状況である。

〔工藤委員〕農業を個で続ける場合、同じ地域でも隣の農家とは考え方が違うと日頃感じている。街の子は地域外に出てもいいが、農業をする山間部の担い手となる子供には、地域に残って農業をするということを推進するのか、ジレンマを感じる所もある。この地域も担い手という部分では、かなり苦慮している所もあるからこそ共同でやろうという流れだと思う。とても難しい問題だと思う。

〔北館委員〕大型機械化が進む中では、人の手間がかからなくなってくる。ただ、こういう中山間こそ、人手をかける農業がもう一度見直される所ではないか。大量生産されないのは、付加価値があるのではないかと思う。それをうまく生産者が実需者に結び付けるパイプがどこにあるのかははっきりできれば、生産者も安心して取り組める。

〔田村委員〕目の前のことをやっていくしかないが、地域を担う人材は大事である。自分の会社も高校卒業生を採用し、農業に従事しなくても社会に適合するような子を育て、地域に貢献するような法人になっていかなければと考えると他人事ではない。

〔吉野委員〕ふる砂徳集落という名前は元々あった名前ではなく、「砂子田」と「徳田」の一字を取って、親しみのある名前を付けているのが特徴である。自然集落ではなく、地区を統合して全域的に取り込むという考え方で作った集落なので、他と差別化し、調書でわかるようにした方がよい。農事組合法人を作ったわけだが、法人化すると関わらない人も出てくるなどの問題もあるかもしれないが、法人化すること自体、苦労が多かったと思うので、乗り越えて、形を作って活動していることは評価できる。調書にピーマンのことが最後に少し出てくるが、現地調査で見た育苗ハウスの空き活用が大事だということではないか。ハウスを中山間地域の気温などの特性を活かして、まず育苗で活用し成功させた。そして、さらに発展させて、空き期間においては新しい産品作りに取り組んでおり、なおかつ地元の知恵を入れて新しい加工品作りに発展させていった。その意味では、平場のような土地がいくらでもある地域ではなく、限られた農地を上手に活用し、ハウスを建てて高い技術でもって育苗を成功し、さらに、それだけにとどまらず、空き期間を使って園芸品を作り、加工品まで取り組んでいるという一連の流れを調書で説明した方がよい。JAに苗を供給しているので技術が高いと思われる。平場への供給点になっており、条件不利な中山間でも考え方ややり方で、一定の所得を上げられるという良い事例だと思う。

〔岡田委員長〕育苗は請負か、自前でやって販売しているのかも大事。

〔事務局〕おそらく一部は農協に、一部は自分たちで使っていると思う。

〔岡田委員長〕それでは、意見交換の結果として、ふる砂徳集落にいわて中山間賞を与えることとしてよろしいか。

〔委員一同〕（同意）

〔岡田委員長〕雫石町の横欠環境保全の会への賞の授与については、少し条件がつくので、よろしくお願ひしたい。

〔事務局〕（了承）

【4 その他】

- ・事務局が、資料 No. 3 に基づき、いわて農業農村活性化推進ビジョン及びいわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業の進捗状況について情報提供した。

【5 閉会】

- ・事務局が閉会を宣言。